

令和7年度 第9回FD研修会 報告書

1. 日 時：令和7年12月2日（火）16：00～
2. 会 場：E102 中講義室
3. 形 式：対面
4. 大学教員20人、短大教員9人、事務職員3人 合計23人
5. テーマおよび講師：「障がいのある学生への支援について」

金沢大学人間社会研究域学校教育系 教授 武居 渡氏
(金沢大学障がい学生支援室 室長)

6. 内容

金沢大学教授 武居 渡氏をお招きし、「障がいのある学生への支援」について聴講した。はじめに、「合理的配慮」の定義について説明があった。

「配慮」という和訳は誤解をあたえやすい。本来、英語では「合理的、理にかなった調整」なのである。「障害のある人が障害のない人と同じスタートラインに立てることを保障する」ことを基軸として考える必要がある。

原則、本人からの支援の要望があってはじめて支援についての議論を行うこと。ただし、支援の要望がない場合でも、大学は「最後の教育機関」として見放さず、本人の「言える力」や支援を育てることが重要である。本人からの支援の要望がない内は「支援はしないが見放さない」姿勢をモットーにしている、とのお話があった。

あくまでも他学生との公平性を損う評価基準の変更や合格基準の変更は行わないよう留意することが大切であり、授業についての支援提供の判断の際は、シラバスが肝心になってくると説明があった。

後半は、就職支援に至るまでの支援方法について、具体的な事例を用いて説明いただいた。その後、フロアからは活発な質問が挙がり、日頃の学生対応に苦慮している教員それぞれが刺激的な時間となったように思う。

今回の研修会は、本学障がい学生支援センターの在り方や今後の学生対応について大変参考になる機会となった。

